

# 西木原線建設工事

鐵道省東京建設事務所長

佐 武 正 一

## 工事概要

起工	昭和四年七月一日
竣工	昭和十一年三月二十四日
區間	木更津驛—上總龜山驛 延長32秆 070米
線路	單線 軌間1米067
勾配	最急1000分の30
曲線	最小半徑200米
築堤	219,916立方米
切取	339,074立方米
橋梁	11ヶ所 延長432米79
溝橋	46ヶ所
伏樋	401ヶ所
隧道	2ヶ所 延長235米
停車場	木更津(既設)—4秆210米—上總 清川—5秆120米—横田—4秆 560米—馬來田—4秆350米— 小櫃—1秆800米—俵田—2秆 560米—久留里—3秆130米— 平山—2秆550米—上總松丘— 3秆790米—上總龜山
使用セメント	24,500袋
用地	215,114平方米
軌道	本線32秆188米54, 側線3秆655米4
保安設備	票券式 通信閉塞式併用

工費 総額約1,506,320圓,  
1秆當り約46,800圓

## 工事關係者

所長	池田嘉六、石川鼎、橋本敬之、楠田 九郎、竹股一郎、河原直文、長屋脩、 佐武正一
擔任技師	小林紫郎、大木利彦、星野茂樹、 宮本保、三好新八、岩田實
工區主任技手	吉川兼藏、關野廣藏
請負者	石黒致義、宮長平作、前田組合資會 社

## 史蹟名勝物産

吾妻神社	木更津驛より西北方1秆700米
證誠寺の狸塚	同 驛より南方600米
與三郎の墓	同 驛より西方200米
蝙蝠安の墓	同 同
久留里城趾	久留里驛より東南方1秆
鹿野山	同 驛より西南方12秆
三石觀音	上總龜山驛より南方3秆
清澄山	同 驛より東南12秆
主なる物産	木炭、用材、米、麥、柿、蘿

## 本線の沿革

本線路は肇め東京灣と太平洋岸とを繋絡す



(1) 西木原線沿線の名所鹿野山神野寺。

る房總半島横断線即ち北條線木更津驛より房總線大原驛に至る延長約42哩の鐵道として、計畫せられたるものであつて其の沿道小櫃、夷隅兩川の流域は地味肥沃にして產業夙に開け、幾多の名邑部落を抱擁し、且農林の物資に富み、商估の往來繁きにも拘らず、交通機關極めて疎にして、僅に千葉縣營輕便鐵道久留里線あるに過ぎざる状態にあり、從て土地豐饒なりと雖も産業の振はざること久しく、依て之が運輸交通の不便を補ふと共に地方産業の開發に資せんが爲、前記木更津久留里間の縣營線を改築して、之を大原迄延長せしむるは最も緊切なりとし、大正十一年第四十五議會の協賛を経て、同年四月法律第三十七號を以て、鐵道敷設法豫定線に編入せられ、次で翌十二年第四十六議會に於て、木更津、大原間鐵道として豫算4,511,000圓を計上し兩院を通過、同年四月十三日鐵道省告示第六十一號を以て東京建設事務所々管に編入、「木原

線」と名稱せられ、茲に本線は其の實現の緒に就いたのである。

其の後五井町を起點とする小湊鐵道株式會社線は、中野迄延長して大原方面との連繫を待つあり、且は久留里、中野間建設費額の膨大に上るを考慮し、昭和八年第六十四議會に於て、本鐵道中央部分の龜山、中野間は、建設線中より削除せられ、中野、大原間及木更津、龜山間の兩鐵道に改められたる結果、前者を東木原線、後者を西木原線と稱するに至つた。而して東木原線は昭和九年八月全通を見たのである。

### 線路状勢

今回全通を告げし木更津、龜山間鐵道即ち西木原線は、房總西線木更津を起點とし、小櫃川流域に介在する清川、中川、馬來田、小櫃の諸村を連ねて久留里町に至り、尙も小櫃川に沿ひ松丘村を経て龜山村に達する線路で

## 國鐵全通線誌上視察・房總半島を横断する西木原線

## 國鐵全通線誌上視察・房總半島を横断する西木原線

かつて、其の延長32キロ2分、線路の最急勾配1000分の30、最小半径200米にして、其の間往来の久留里線には上総清川、横田、馬来田、小櫃、俵田及久留里の六驛が在り、更に龜山に至る新設線路には平山、上総松丘、上總龜山の三驛を置く。

### 工事概況

本線建設工事は、大正十五年十月先づ龜山、久留里間に測量実施に始まり、全線を木更津、久留里間に於ける久留里線改良工事及久留里、龜山間に於ける新設建設工事の二つに分割して施行せられたのである。

千葉縣營たりし久留里線は、是より先既に大正十二年九月一日國營に移管せられ在り、

此の2呎6吋軌間の輕便鐵道を、省線規格たる3呎6吋軌間に變更する22秆600米に亘る線路改良工事は、先づ數個所路線の變更改良を施したる上、土工其他改築工事を三區間に分かちて請負に附し、昭和四年七月より着手したのである。而して本改良工事の主眼たる軌間變更工事は、昭和五年三月より直營施行に依つて着手、先づ2呎6吋、3呎6吋の兩線を設けて列車運轉を繼續しつゝ工を進め、線路切替當日の夜間作業は多大の考慮と準備の下に、僅々數時間の間に全線30箇所の切替を完了せしめ、昭和五年八月二十日3呎6吋軌間の運轉を開始したのである。

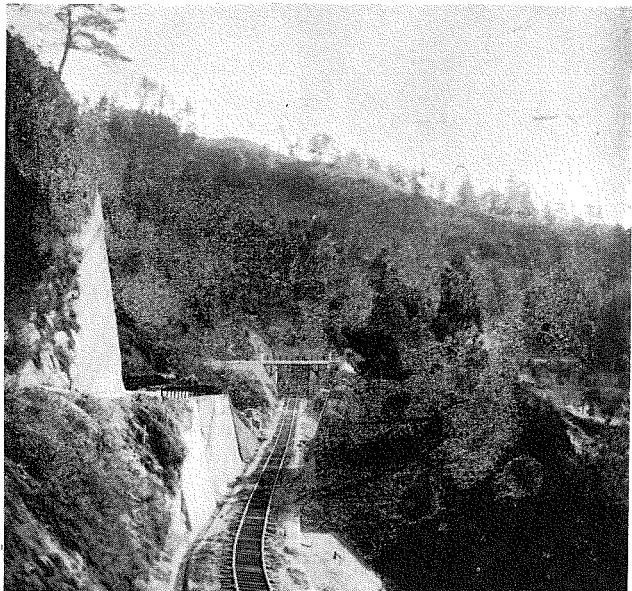
久留里、龜山間9秆588米の建設工事は、之を1工區として昭和九年四月より着工し、



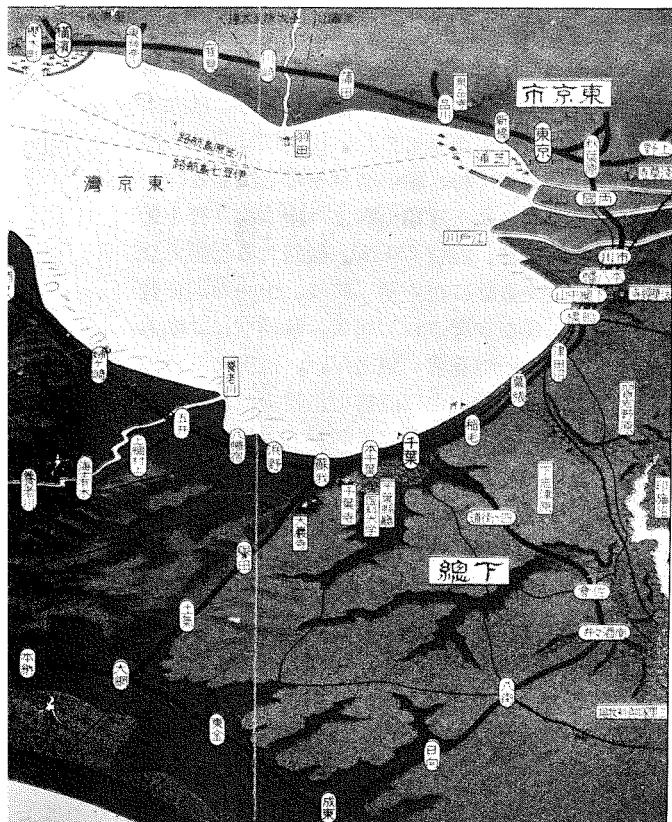
## 國鐵全通線誌上 視察

土工其他工事及建物工事は主として前田組合資會社、軌道工事は渡邊組が夫々請負ひ施行したのである。

本區間の地質は、内總より外總に向ひ積木細工型に、上り緩勾配をなす粘土板層にして、所々軟柔なる地層の嵌入せるあり。一般に河川の浸蝕深く且曲常ならず、爲に橋梁工事は比較的多かりしも、基礎地盤は割合に堅固なりしを以て、施工容易なるを得たが、偶々數個所に於て土質不良の爲、降雨に際し屢々築堤の崩壊に遇ひ、杭打、柵、土留等を施して漸く土砂の安



(3) 名殿隧道附近の西木原線。

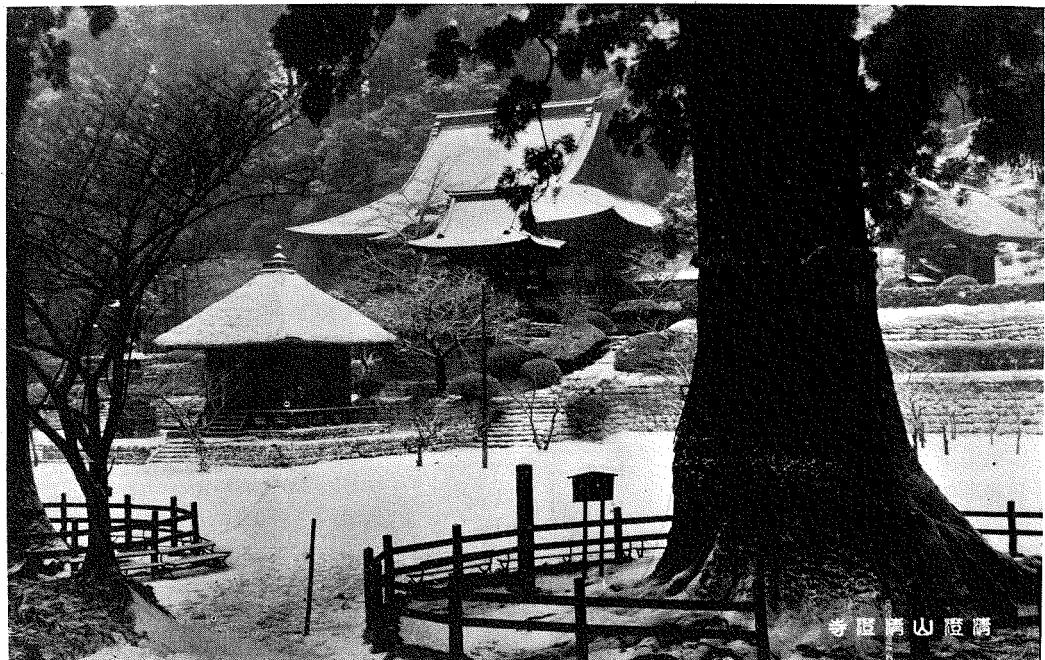


定を得たる等あり、之が爲軌道、架桟工事の工程に支障を來し、施工上相當苦心を要したが、幸ひ工事は豫定の進捗を見、昭和十一年三月二十五日本區間の營業開始を以て、測量實以來星霜十一年を閲し、茲に本線の全通を告ぐるに至つた次第である。本線に要したる總費額は1,506,300餘圓に上り、内久留里線改良工事には905,000餘圓を費し、久留里、龜山間建設工事には601,300圓を要して、この區間1糠當り費額は62,700餘圓に當る。

## 沿線案内

本線の起點である木更津町は、東京灣に臨める要津として發達した所で、日本武尊東征の折、走水の海を渡り上陸せられ、橘姫を追想して去るに忍びられなかつた所として、君不去と稱し、それより今の名に轉訛したと云ふ、其の故事を忍ぶべき吾妻神社は、その北部にある、尙當町には童謡でお馴染みの證誠寺の狸塚や、源治店の舞臺面に活躍する切られ

## 房總半島を横断する西木原線



(4) 清澄山 清澄寺。

與三郎の墓がある光明寺、また撰擇寺には同じく蝙蝠安の墓もある。

本線中での名邑久留里町は、相當長い歴史を持つて居り、市街東南の丘陵は久留里城跡である。今を去る400餘年前大永二年里見義堯が築いて久留里城と命名、又一名雨城とも云ふのは、北條氏康が久留里城を度々圍んだが、必ず降雨があり、煙霧濛々として咫尺をすと云ふ有様で、其の都度敗を重ねて退いたので名付けたと傳ふ、慶長四年四月大須賀忠政久留里城に轉封後、慶長七年土屋忠直同城に轉封され、其の孫賴直に至りて廢城となり、寛保二年黒田直純上州沼田より轉封し、久留里城を再建して居城となし三萬石を領したが、直純七世の孫筑後守直養に至つて、大政維新廢城となつたのである。

房總の名山鹿野山は、久留里町の西南10糠餘に在り、内3糠は自動車の便がある、往時は當町が其の順路であつたと云ふ。海拔352米

の山上には神野寺や白鳥神社があり展望に富み、特に富士山の眺めに佳く、南方には九十九谷の奇景が瞰下せられ、山腹には縣營の模範林があつて杉、檜の密林をなして居る。

本線の終端上總龜山驛より南方約3糠を距る三石山は、海拔281米、巍然たる巨巖併立し、中央巖窟に在る堂には、十一面觀世音菩薩の像が安置されて居る。縁結びに効顯ありとして四時賽者が絶えない。山上よりは遠く連なる青嶺の中に鹿野山、鋸山、筑波山、富士等が指呼され展望佳絶である。此處より峯傳ひに小徑を辿ること約3時間にして、清澄山に達する行程は絶好のハイキングコースとして推賞の價値がある。

清澄山は房總東線安房天津驛より9糠、自動車の便があり、山中林相美に富み、山上幽邃の地に眞言宗の名刹清澄寺があり、堂前の大杉は杉の巨樹として全國屈指のものである。

## 國鐵全通線誌上視察・房總半島を横断する西木原線

## 大阪市美術館附帶設備概要 (297頁より續く)

**暖房換氣設備** 地階汽罐室に「セクショナルボイラー」三基「ストーカー」、送風「ファン」、排氣「フラン」、空氣洗滌機、同濾過機、加熱器、各種ポンプその他諸機械を設備し冷房機械室に冷凍機、空氣洗滌機、送排風機、加熱器その他を備へ、又四階塔屋には「エレベーター」機械、水槽、排風「ファン」その他を装置し、「ダクト」又は「パイプ」を各室に通じ各装置を操作せしむ。

**温風暖房設備** 各陳列室及び展覽會室及び別に小講堂に装置し適度の暖房換氣及び湿度調整をなし得。

**直接暖房設備** 陳列室、展覽會室外の各室は「ラヂエーター」を設備せり。

**換氣設備** 大講堂、書庫、厨房、地階便所等に設備す。

**湿度調整設備** 陳列物の保存に萬全を期する爲地階中央倉庫は特に換氣及び湿度の調整に意を用ひ、自動的且つ經濟的に適温、適濕、及び適度の換氣を與ふ可く設備せり。

**給水及び消火** 給水は大阪市設の水道管より分岐し、汽罐室、厨房、浴室、化粧室、便所各階洗面「洗及びタンク」その他に送水す。消火栓は各廊下に設けたる消火栓納箱内に設備し、水道本管と連絡し尙途中に電動「ボムプ」を設備し、消火栓箱内の「スヰ

ツチ」と連絡せしめ有事の際は直ちに「ボムプ」を運轉せしむる可く設備す、尙外部に「サイアミースコンネクション」を設く。

**衛生設備** 各便所は凡て水洗式にして、流出せる汚水は一大淨化槽に導き下方下水に自然流下せしむ。

**瓦斯設備** 廚房、浴室、使丁室その他要所に配管せり。

**電氣設備** 市電氣局より供給を受け交流3300ボルト、三相三線式にして、地階變電室に引込み電燈用として100「キロワット」動力用として150「キロワット」を設備す、各階分電盤までは三相三線式それ以降は單相二線式に配電す。二階陳列室は特に照明の効果を計り間接照明器具及び小屋裏内に特殊装置をなし晝光電燈を用ふ。電熱器は貴賓室に12「キロ」館長室應接室及び事務室に1「キロ」づゝ設備す。

**電話電鈴電氣時計** 電話は電話交換室に共電式單座席交換機一臺を設備し各室36個所より来る各部との電話交換通話を操作す。電鈴は館長室及び事務室より使丁室に繋ぐ。電氣時計は親時計を事務室に設置し各室三十餘個の子時計を操作せしめ且つ各階に時報を信號せしめ得。

## 指宿線車窓案内 311頁より續く)

### 鹿児島驛附近名勝舊蹟は次の如し

薩摩義士弔魂碑、福昌寺趾、東郷元帥墓地、祇園之洲公園(薩英戦争當時の砲臺趾)、尚古集成館、南洲、大久保甲東、東郷元帥、乃木大將夫人等の誕生地、南洲翁居宅跡、桂庵禪師の墓、天保山、商工獎勵館、縣立圖書館等。

### 慈眼寺公園(谷山驛より西南方約3糠)

推古天皇の朝、日羅上人(百濟人天臺宗)自作の聖觀音を安置せる慈眼寺の遺蹟である。大正十五年

町費を投じて公園の施設を整へ開放した。幽邃閑雅の地で眺望佳く櫻、楓樹が多い。山嶺には西征將軍宮懷良親王を祀る谷山神社がある。

### 御所ヶ原(谷山驛より約4糠)

懷良親王錦旗を奉じ六ヶ年間御駐籠の遺跡と傳ふ。

### 鳥帽子巖神社(平川驛より約4糠)

素盞鳴命、天手力之命を奉祀す。靈験著しく參籠者の絶える時がない。

### 駒返し及び里地藏海岸(瀬々串驛より東南約1秆)

應永二年島津豊久、伊集院頼久を攻撃せし際の傳説地にして附近は老松曲汀櫻島を映じて風光明媚である。

### 琉球笄(メヒルギ)(前ノ演驛より東南方約2秆300米)

往昔琉球より漂着せるものと傳へられてゐる自生の灌木で婦人の笄に彷彿としてゐるので琉球笄(メヒルギ)の名がある。天然記念物に指定されてゐる。

### 指宿溫泉(指宿停車場附近)

指宿溫泉とは摺ヶ濱溫泉、二月田溫泉、湯口溫泉等の總稱である。亞熱帶に屬せる南國氣分の濃厚な海岸1里余の到る所に天下一品の砂蒸湯が湧出し湯量の豊富、泉質の多岐を誇つてゐる鹽類泉、鐵泉、硫黃泉、ラヂューム含有泉等で胃腸病、リュウマチス、神經痛、腺病等に卓效がある。

最近は旅館の設備も改善され殊に常春の南國、避寒溫泉としては日本一の稱があり、夏は海水浴場として近代的色彩の饒かなところである。泉熱利用の促成野菜類や發刺たる鮮魚が食膳に供されるのも忘れ難い魅惑である。

### 池玉湖(指宿驛より西南方約5秆半)

火口湖とも陥落湖ともいはれてゐる池田湖は周囲約19秆、水深約230米に達する九州唯一の湖水で中禪寺湖や芦の湖よりも大きい。別名薩摩富士の稱ある開聞嶽の巖姿を朝夕その湖面に映じて千變萬化、一帯の高原には牧牛悠々と大自然に戯れ風光名畫の如く展開されてゐる。湖水には鯉、鮒、鰻、公魚等を産し遊覧船の設けがあつて旅客の需めに應じてゐる。

### 知林小島と魚見岳(指宿驛より東方約1秆)

薩摩藩の烽火臺、砲臺(臺場)跡として有名で翠松の錦江灣に照影する狀も美しい。

### 鹿兒島高等農林學校指宿試驗場(指宿驛より東方約1秆半)

溫泉熱利用の促成農藝に關する研究と指導をなし附近一帶泉熱利用に據る茄子、胡瓜、メロン等の促成栽培が旺んであり食鹽製造所、スツボンの促成飼育場、園藝場がある。

### 山川港(山川停車場附近)

舊噴火口跡で一名鶴の港の稱あり、周回約5秆、最深46米に及ぶ天然の良港である。島津藩時代唯一の貿易港として繁榮を極めたが現在は南海漁業根據地としての築港、陸揚設備も略々完成され水產年額221萬圓に達し鰹節の製造鮮魚の取引は殊に盛大で

ある。明眞な風景に恵んでゐる。

### 長崎鼻(山川驛より西南方約8秆)

薩摩半島の最南端優艶開聞嶽と相對し遠く大隅半島硫黃島を望む長崎鼻は豪壯、雄大な景觀を壇いまゝにしてゐる。南國鹿兒島の香氣と情熱と剛健とはこゝに躍躍し感觸される。

### 天然記念物蘇鐵自生林(山川驛より西南方約7秆)

長崎鼻の背面にあつて椰子、ゴム樹、榕樹、バナナ等の熱帶植物が自生繁茂してゐる。天然記念物として指定さる。

### 開闢嶽(山川驛より西南方約9秆)

半島の尖端、太平洋の波濤に洗はれて颶爽と聳え立つ開闢嶽は高さ921米、薩摩富士の雄姿こそは南海の壯觀であり願望である。

### 枚闇神社(山川驛より西南方約8秆)

大日靈貴命を祀る國幣小社で開闇神社とも稱してゐる。

### 徳光神社(山川驛より西南方約7秆)

廿諸傳來の恩人前田利右衛門翁を祀る。長崎鼻の往路にある。

### 龍宮神社(山川驛より西南方約8秆)

長崎鼻にあり浦島太郎、乙姫に迎へられたといふ傳說の地である。

### 鰐池及び鰐溫泉(山川驛より西北方約4秆)

鷲尾岳の麓に閑寂な周囲約4秆の鰐池があつて池畔の鰐溫泉は皮膚病、リュウマチス、胃腸病に特效がある。池からは鯉、鮒、公魚、鰐等が獲れる。

### 榕樹の鳥居(山川驛より東方約2秆)

熊野神社二の鳥居で廻り二丈余の榕樹二本、地上一丈余の處で結合し自然の鳥居を形作つてゐる。

### 殷河洲(山川驛より東南方約4秆)

海邊より約650米の海上にある廻り約220米、高さ約60米の大巖、空洞東西に通じ小船の往來が可能である。

### 山川溫泉(山川停車場附近)

山川驛前、成川濱海岸砂地には到る所に溫泉が湧出してゐて旅館もある。